



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」121号
Issue Date	2005-12-21
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66310
Type	journal
File Information	yuin121.pdf





榆蔭

Yuin

北海道大学附属図書館報

目次

巻頭言

アジアの歴史学界から注目される北大図書館所蔵資料
公共政策大学院・法学研究科助教授 川島 真… 1

お知らせ

来館日誌…………… 5
オープンユニバーシティが実施されました…………… 6
HUSCAP：北海道大学学術成果コレクション
(実験版)説明会の開催…………… 7
「軸物保管ケース」の導入について
(財団法人田嶋記念大学図書館振興会助成金の採択) …… 9
北海道大学附属図書館講演会
(平成 17 年度第 1 回)が開催される …… 10

出張報告

国際図書館連盟(IFLA)年次総会
情報システム課システム管理係長 杉田茂樹… 11
インターンシップ
平成 17 年度附属図書館インターンシップ
(図書館実習)について…………… 12
1. 図書館情報学実習を終えて
筑波大学図書館情報専門学群 3 年 池田結衣 … 13
2. 図書館実習を振りかえり
筑波大学図書館情報専門学群 3 年 中村里恵 … 14
教員著作寄贈図書(2005.7.1 - 2005.10.31) …… 15
会議(2005.8.1 - 2005.11.2)…………… 16
榆蔭 120 号訂正…………… 18

アジアの歴史学界から注目される北大図書館所蔵資料 — 「帝国の学知」の拠点として—

公共政策大学院・法学研究科助教授 川島 真

筆者は1998年に本学に赴任したが、はじめて総合図書館の書庫にはいったときの驚嘆と感動を忘れない。東アジアの歴史を研究する者として、北大の蔵書はまさに「宝庫」である。これは筆者のみならず、東アジア各地の歴史研究者に共通する印象であろう。「歴史」がさまざまなかたちで問われる今、かつて植民地学の拠点で植民地官僚を多く輩出した北海道大学の蔵書は、「帝国の学知」を反映するものであり、国

内のみならず、台湾、韓国、香港、中国などからも脚光を浴びている。本稿では、その北大の蔵書の魅力と今後の課題、展望について述べていきたい。

◆注目される「戦前の植民地、外地関係の資料」

北海道大学にある貴重な資料といえば、誰でも北方関係の資料を想起するだろう。北海道大学総合図書館には北方資料室という、世界の学

界から注目される資料室を有している。テレビや雑誌、書籍などのメディアに用いられている北海道、あるいは「北方」に関する写真や資料の多くは、この北方資料室から貸し出されたものである。北方資料室に所蔵される歴史資料は、一見「骨董」とも思えるのだが、実は社会的な需要が高く、北大の対外的な重要なサービス部門として大きな意味をもつ。また、その資料こそが他の図書館などにはない、北大の所蔵資料の特色として認知されて、そうした資料を保存、公開し、利用者の便に供していること自体が、一般社会や内外の研究者から高く評価されるポイントともなっていくのである。

だが、ここで取り上げたいのはその北方資料ではない。実は、北海道や北方関係の資料以外に、日本の研究者やメディアはもとより、世界のアジア研究者の注目を集めている資料群が北大の図書館にあることをご存知だろうか。それはすなわち、戦前の植民地、外地関係の資料である。これらは、北方に限ったものではなく、台湾、朝鮮、満洲、中国各地などを含み、まさに「帝国」的な広がりをもったものである。そして、決して「コレクション」として収集されたものではなく、それぞれ必要性に応じて収集されたりしたもので、現在は総合図書館の書庫や農学部農業経済学科図書室、医学部図書館などに普通に配架されている。それは、図書や新聞、雑誌、パンフレット、新聞の切り抜きなどであり、そこには日本国内の他大学、台湾や韓国にも無いものが数多く含まれている。特に台湾、朝鮮、満洲、樺太、ひいては日本占領下の華北で刊行されていた新聞、また雑誌などは、全国的に見てももっとも欠号が少なく、保存状態が良好だとされ、資料の復刻やドキュメンタリー番組に多く用いられている。

東アジア各地の研究者は、これらの資料の閲覧を目指して北大を訪れる。こうした大学の所蔵資料が「研究大学」としての存在を決定付け、その資料があるからこそ内外から研究者が集ま

り、共同研究の契機を産み出していくのである。世界有数の大学は、研究者の資料・情報収集の巡礼圏の核となり、世界の博士課程の学生が集う場となっているが、その吸引力の源の一つは大学の所蔵資料なのである。そうした意味で、貴重な外地・植民地関係資料を有する北大図書館がアジア各地の大学院生の巡礼圏の一つの核になっているということは、注目に値する現象である。

◆なぜ北大に？—北大に外地・植民地関係資料が蓄積された背景—

周知のとおり、戦前の北海道帝国大学は、理系の大学でありながら、農業経済学をはじめ、いわゆる「植民（地）学」と密接に関わる「帝国の学問」の一大センターであり、植民地官僚を数多く輩出した大学であった（内国留学生、あるいは中国や満洲からの留学生の受入について他の帝国大学に比べて消極的であった）。そのため、蔵書にも台湾、朝鮮、満洲、中国など「外地」関連の資料が数多く残され、また図書館員の努力や気候の関係もあり、非常にいい保存状態で現在に至っているのである。また、一部には、日本の敗戦前後に廃止された機関から移管されてきた資料もある。

これらの資料は、現在、総合図書館を中心に、医学部、農学部図書館（農業経済学科図書室）などにも所蔵され、閲覧環境についての評判も良好である。目録としては、北海道大学附属図書館『旧外地関係資料目録：朝鮮・台湾・満州（東北）』（1975年）や、アジア経済研究所図書資料部編纂『旧植民地関係機関刊行物総合目録』（5冊、アジア経済研究所、1973—1981年）、北海道大学経済学部編『高岡・松岡パンフレット目録』（3冊、北海道大学経済学部、1980—85年）などが編まれているが、OPACに登録されていないものもあり、北大の所蔵する外地・植民地関係資料の全貌はまだ十分に把握されていないという課題が残されている。

◆なぜいま注目されているのか

日本を代表する台湾研究者の若林正文・東大教授も、その博士論文執筆時代を回想して、当時、北海道大学図書館まで来て、いまやマイクロフィルムとなって出回っている『台湾日日新報』の現物をめくりながら執筆したと述べている。この新聞は、日本の台湾統治に関する基礎史料であるが、現物を揃いで所有し、それを公開している図書館は日本にも、台湾にもほとんどないのである。

しかし、日本国内の一部の専門家に北大が外地・植民地関係の貴重な資料を少なからず所蔵している、ということが知られていても、以前は、現在のように海外から続々と研究者が資料を閲覧に来るという状況ではなかったであろう。では、どうしてこのような変化がおきたのか。たとえば、呉文星・許建珍「近代日本における学術と植民地：開拓すべきもう一つの新たな研究分野」（『北東アジア研究』6号、2004年1月）などは、日本の植民地経営における北海道帝国大学の重要性を説いたものである。この例にも見られるように、昨今、近代日本における学問、学術がいかに「帝国」の形成にかかわり、植民地支配に影響を与えてきたのかということが研究対象となってきている。その中で、大学史それじたいも問われながら、同時に蔵書のありかたそれじたいが知的情報の集積体として注目されているのである。他方、台湾や韓国、また中国において、ある種のイデオロギー的な歴史を脱却し、いわゆる歴史の実証研究が広がりつつあることも重要である。彼らは、内外の資料収集をおこない、その中で北海道大学総合図書館の貴重な資料を「発見」し、札幌に来るのである。なお、日本の北海道支配の経験が植民地支配にいかに適用されたのかという問題関心も、しばしば指摘される論点である。

◆なにが注目されているのか — 資料の内容 —

総合図書館の書庫にある雑誌群、新聞保存室の戦前の新聞、そして農業経済図書室の蔵書や新聞切り抜き、医学部図書館の雑誌などが注目されている。閲覧者それぞれ関心の所在が異なるのは当然のことであるが、それでも一定の傾向として新聞、雑誌への関心は高いのである。特に、『台湾日日新報』、『樺太日日新報』などの新聞については、全国的にも、所蔵量・状態ともに最良だと言われている。また、日本が華北占領時代に北京で発行していた新聞『新民報』についても、北大が主要な所蔵機関となっている。雑誌についても、『台湾時報』、『台湾鉄道』などが台湾以上にそろっていたり、日中関係でも戦前期の文化交流団体として知られる日華学会の『日華学報』や、医学関連の同仁会の機関誌である『同仁』（医学部図書館所蔵）がきわめてよい状態で、量的にも多く残されていることが注目される。満洲についても、多くの資料があり、満洲電電の機関誌である『電電』も多く所蔵している。これらはしばしばメディアで利用されているものであるが、学内的にはあまり注目されていない。

このほか農学部農業経済学科図書室に所蔵される図書、新聞の切抜きや、経済学部の「高岡・松岡パンフレット」なども注目の的である。

こういった新聞、雑誌、パンフレットのほか、図書にも貴重な資料が多く所蔵されている。他で見つけられなかった本が、北大で見つかったという声を多く耳にする。それだけの特徴とプライオリティを北大の蔵書は有しているのである。

◆どのような課題があるのか — 課題と展望 —

こうした貴重な蔵書を有する場としていま何が求められているのだろうか。ここでは今後の課題と展望について述べてみたい。

第一に、「自覚」がある。本学の職員が、北海道帝国大学と東アジアの関わりについて理解

し、そして自らの蔵書がそれだけ注目されるものであることを「自覚」し、それを大学のひとつの歴史的沿革をともしなう特色として、位置づける必要があろう。

第二に、これらの貴重な資料が利用者に順調に閲覧され、活用されるようにするためのインフラストラクチャを整備していくことが求められよう。北海道大学の図書館は、対外的開放度が高く、外国人研究者からの評判もよい。だが、たとえば資料の中では OPAC に入力されていなかったり、外部からの利用者には不便な点も残されている。

昨今、アジア経済研究所などを中心に、また新たに全国の外地・植民地関係図書・新聞・雑誌などの目録を作成する計画がある。そうした動きとどのように連携しながら、インフラ形成をするかが重要となろう。

第三に、こうした資料を積極的に位置づけ、対外的に宣伝していくことである。実際、戦前期の高等商業、高等農林、あるいは旧帝国大学系の大学の図書館には、北海道大学と同様、戦前期の外地・植民地関係の資料が多く残されている。だが、独立行政法人化、あるいは統廃合などにより、これらの「古い」資料は、社会的重要性が認知されず、存廃の危機に瀕している。そうした中で、たとえば滋賀大学経済経営研究所のように、ウェブサイトで積極的に目録を公開し、充実した検索システムを利用者に供するところもあらわれている。ここ数年、こうした戦前期の資料を有する大学の図書館関係者や教員の間で研究会が設けられる機会が増えてきて

いる。こうした場で情報交換をおこないつつ、本学の蔵書の特色を見定め、対外的に積極的に発信することが求められよう。

第四に、これは課題というよりも展望であるが、このように自己の歴史をみつめつつ所蔵資料や学校史資料を図書館や大学アーカイブで公開していく姿勢こそ、情報公開のみならず、自らの過去に対する真剣な取り組みとして高く評価されるということが留意される必要があろう。北海道帝国大学が「帝国の学知」の拠点で、植民地官僚を多く輩出したことは、あまりアジアから歓迎されないのではないか、北海道大学もまた植民地支配に加担したのではないかと、いう懸念を想起される読者もおられることであろう。しかし、そうしたことはもはや自明であり、今求められているのは、むしろそれを大学としていかに受け止め、北海道大学に関心をもつ東アジアの研究者などに蔵書や大学資料をいかに開放し、その利用に供していくかということではないだろうか。

第五に、そうした大学の姿勢が、大学の国際的な地位を高め、教育研究面の国際的な発展だけでなく、本学への留学生の増加など、さまざまな効果をもたらすであろうことは容易に想像できよう。

北海道大学自身のもつ「帝国の学知」の蓄積を把握し、他学との比較や東アジア全体の広がりの中でその位置づけを見定めつつ、対外的に適切に示していくこと、それがいま求められているのである。(了)

お知らせ

来館日誌

(平成17年 8月～10月)

No.	来館者	来館日	時間	人数
1	いわき市教育委員会委員	8月22日(月)	午後	3
2	マレーシア サラワク大学総長一行	9月29日(木)	15:10-15:30	3
3	北海道ハイテクノロジー専門学校生	10月28日(金)	14:30-16:00	44
	計			50



北方資料室を見学する北海道ハイテクノロジー専門学校生

オープンユニバーシティが実施されました

平成17年8月1日(月)に札幌キャンパスにおいて「平成17年度北海道大学オープンユニバーシティ」が実施されました。附属図書館では、「大学の図書館をみてみよう!」と題し、図書館とはどういうところなのか、どんなサービスがなされているのか説明し、北方資料室所蔵の蝦夷地古地図やアイヌ風俗画などの貴重な資料の見学、北分館の館内ツアーが行なわれ、計29名の方が参加しました。

【本館】

◎内容

- ・館内ツアー（開架閲覧室→書庫→北方資料室→参考閲覧室）
- ・OPAC（蔵書検索）のデモンストレーションと体験

◎時間

- 1回目 11:00-11:45
- 2回目 13:00-13:45
- 3回目 15:00-15:45

◎配付資料

- ・図書館利用案内 — はじめての方へ —
- ・OPAC の使い方



北分館では、館内閲覧室を中心に見学を行いました。

【北分館】

◎内容

- ・館内ツアー（1階閲覧コーナー→2階閲覧室・マルチメディア公開利用室→3階閲覧室→4階閲覧室）

◎時間

- 1回目 12:10-12:50
- 2回目 14:10-14:50

◎配付資料

- ・図書館利用案内 — はじめての方へ —



HUSCAP：北海道大学学術成果コレクション(実験版) 説明会の開催

平成17年8月から9月にかけて、学内11部局において HUSCAP の概要をご紹介する説明会を開催し、145名の教職員の方々に来場いただきました。説明会でお寄せいただいたご質問等について以下に紹介します。また、同様な説明会開催の希望がありましたら、学部、専攻、研究室等どのような単位でも結構ですので、附属図書館 (repo@lib.hokudai.ac.jp) へご連絡ください。



人文・社会科学総合教育研究棟 (W棟)



理学研究科・理学部

質疑応答 (抄)

Q. どんなメリットがあるのですか。

A. 例えば雑誌に投稿し、掲載された論文はその雑誌を購読している人々にしか読むことができません。たとえそれが電子ジャーナルであっても、その電子ジャーナルを購読している大学からしかアクセスできません。一方、その論文を同時に HUSCAP にも載せると、インターネットを通じて世界のあらゆる地域のあらゆる層の読者が、その論文を読むことができます。また、頂いた資料は図書館の蔵書として大切に保管し、後世へ伝えていきます。

Q. 雑誌に投稿した論文を HUSCAP から公開したいのですが、著作権が心配です。

A. HUSCAP で公開することに問題がないかどうかは附属図書館が出版社に確認をしますのでご安心ください。論文の著作権が投稿規程などによって出版社に譲渡されている場合でも、海外の多くの学術雑誌は、著者が自分の論文を自分または所属機関の Web サイトから独自公開することを許可しています。なお、出版社の許諾を得られなかった場合は残念ながら公開を控えることになりますのであらかじめご了承ください。

Q. 昔の論文も収集しているのですか。

A. はい、昔の論文でも結構です。ただ、電子ファイルが残っていない場合が多いと思いますので、基本的には、最近あるいは今後の発表論文を、出版と同時に HUSCAP にもご寄贈願いたいと考えております。

Q. 実験版ということですが、今後のスケジュールはどうなっていますか。

A. 今回の HUSCAP は、附属図書館が実験として実施しているもので、実験期間は平成17年7月20日から平成18年2月末日までです。実験期間終了後は、資料の提供状況や利用状況のデータ、利用者からのご意見等を集約し、その後の運用方法等を検討したいと考えています。

Q. 電子ジャーナルからダウンロードした PDF ファイルを HUSCAP に載せられますか。

A. 許可していない出版社が大半です。お手元の原稿ファイルをご寄贈願います。

Q. 原稿ファイルだと本文と図表がばらばらなのですが、それでもいいですか。また、どんなファイル形式で送ればよいですか。

A. ばらばらでも結構です。図書館ではいただいたファイルを連結し、一編の PDF ファイルに変換し、HUSCAP に搭載します。お送りいただくファイルは基本的にはどのような形式でも結構ですが、可能であれば PDF 化してお送りいただくのが最適です。

*HUSCAP=Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp>

「軸物保管ケース」の導入について

附属図書館北方資料室では、財団法人田嶋記念大学図書館振興会からの助成金により「軸物保管ケース」(写真)を導入いたしました。

これまでの軸物の保管は、吊り下げや段ボール箱に立てかけておりましたが、この「軸物保管ケース」の導入により、ケースに軸物を横置きで収納できるようになりました。又、引出の底に湿度を調整できる「調湿ボード」を敷設しました。これにより、軸物の劣化の進行を防ぐと共に分散管理から集中管理できることとなり保存環境が大幅に改善されました。

「軸物保管ケース」のサイズ

高さ：150cm 幅：178cm 奥行：80cm

1 ケース：4 段組（1 段：10cm）× 3 ケース＝12段



北海道大学附属図書館講演会(平成17年度第1回)が開催される

平成17年10月3日(月)北海道大学附属図書館会議室において、道内国公私立大学等の図書館職員を対象に平成17年度第1回北海道大学附属図書館講演会が開催され、道内21機関から75名の参加がありました。

初めに国立国会図書館調査及び立法考査局文教科学技術課主査の南亮一氏による「図書館と個人情報保護法」と題して、「個人情報保護法」及び「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」等について図書館業務の観点から詳解され、プライバシー保護法制等を交えてその関連性についても解説されました。

次に、東北大学附属図書館総務課情報企画係長の佐藤初美氏が「大学図書館における情報リテラシー教育の実際―東北大学の事例―」と題して講演をおこないました。この中で、平成17年度国立大学図書館協会賞を受賞された、東北大学附属図書館情報探索マニュアル作成ワーキング・グループによる「東北大学生のための情報探索の基礎知識」の作成・刊行の経緯、それを活用したリテラシー教育支援についての紹介がありました。

その後、本学の事例報告が行われ、附属図書館情報サービス課参考調査係長 竹鼻敏治氏、大学院医学研究科・医学部図書閲覧係 綾田陽子氏から現在実施している情報リテラシー教育支援業務についての事例を中心に、その取り組みと活動内容が報告されました。

最後に講演者と参加者による活発な質疑応答や意見交換がおこなわれました。



南国立国会図書館調査及び
立法考査局文教科学技術課主査



佐藤東北大学附属図書館
総務課情報企画係長



竹鼻北大附属図書館
情報サービス課参考調査係長



綾田北大大学院医学研究科・
医学部図書閲覧係員

出張報告

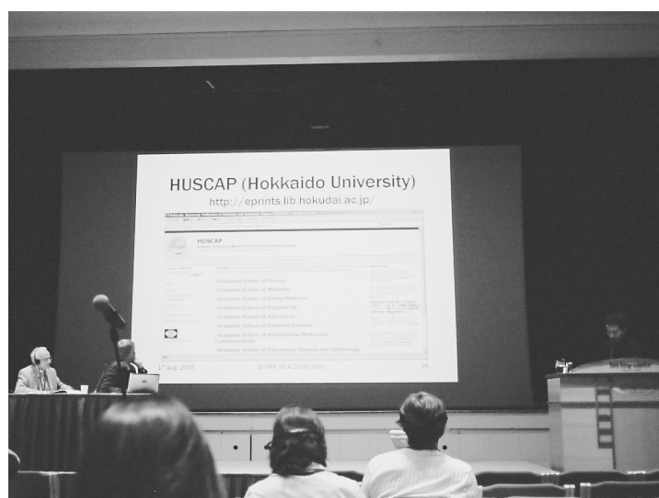
国際図書館連盟 (IFLA) 年次総会

情報システム課システム管理係長 杉 田 茂 樹

平成17年8月14日（日）から18日（木）にかけてオスロ市（ノルウェー）で開催された第71回国際図書館連盟（IFLA）年次総会に参加しました。同大会には世界中から4000名を超える図書館関係者が集まり、様々な情報、意見交換が活発に行われました。



会場（オスロ・スペクトラム）



発表の様子

「科学技術図書館」分科会では、ノルウェーにおける学術情報のオープン・アクセスに対する取り組み、米国科学技術機構（NIST）における研究情報提供の概要などに関する発表がありました。また、「逐次刊行物・継続資料」分科会では、雑誌危機やオープン・アクセスに触れる発表が多く、オックスフォード大学出版局からは同社のジャーナルが提供する各種オープン・アクセス形態の現況についての具体的数値による分析報告もありました。

「情報技術」分科会では「NII-IRP : National Portal to Nation-Wide University Institutional Repositories Network Utilizing Open Source Software」と題した発表を行いました。同発表は、昨年度実施された国立情報学研究所「学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト」（北海道大学附属図書館も参加）の概要を中心に、国内各大学の機関リポジトリ整備の概況を報告したものです。なお、北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）のシステム構築には、同プロジェクトの成果を利用しています。

その他、オスロ大学において現地日本関係者との懇談会をもったほか、オスロ郊外にある「フリチョフ・ナンセン記念研究所図書室」を見学しました。同研究所は海洋探検家であるナンセン（1861－1930）の旧居であり、その一室を用いた小規模な図書室を見学し、同研究所の由来や海洋学・海事法を含む現在の研究活動等について説明を受けました。

最後になりましたが、今回の出張にあたって、国立情報学研究所ならびに附属図書館の皆様から多大なご配慮をいただいたことに感謝します。

インターンシップ

平成17年度附属図書館インターンシップ(図書館実習)について

附属図書館では、平成12年度から他大学からの図書館実習の要請を受けてインターンシップ（図書館実習）を実施しております。平成16年度には、すでに実施していた筑波大学と武蔵女子短期大学に、あらたに藤女子大学が加わりました。そして、平成17年度にはこれら3大学で計7名の実習生を受け入れ実施しました。また今年のあらたな試みとして、従来3大学ごとに別日程で実施してきた日程を、武蔵女子短期大学と藤女子大学の2大学同時日程での実施に取り組み、実行いたしました。

図書館実習は、実際の図書館業務を体験してもらい職業意識を高めて頂くことを目的とし、短期間（5－7日間）であってもほぼ全業務を体験できるよう実習プログラムを作成しております。附属図書館（本館・北分館）の複数の係が図書館資料の処理の流れに沿い連携して実習を行っています。実習を終えた学生からは「講義で学べない図書館業務や貴重な経験ができる」との感想が多く寄せられました。



図書館の概要について聞き入る武蔵女子短大(左)と藤女子大(右)の実習生たち

平成17年度の実施状況

大 学 名	人 数	日 数	期 間
筑波大学（旧図書館情報大学）			
図書館情報専門学群	2人	15日間	7月 8日～7月29日
北海道武蔵女子短期大学			
教養学科図書館司書課程	3人	7日間	8月 1日～8月 9日
藤女子大学 文学部(文化総合学科／日本語・日本文学科)			
図書館情報学課程	2人	7日間	8月 1日～8月 9日

※北海道武蔵女子短期大学と藤女子大学は同時期実施した

年度ごとの受入人数

	筑波大学	北海道武蔵女子短期大学	藤女子大学	合 計
平成12年度	2			2
平成13年度	3	6		9
平成14年度	0	6		6
平成15年度	2	5		7
平成16年度	1	6	3	10
平成17年度	2	3	2	7
計	10	26	5	41

図書館インターンシップを終えて

図書館情報学実習を終えて

筑波大学図書館情報専門学群 3 年 池田 結衣

この図書館情報学実習を受ける前は、図書館での仕事といわれた際に、カウンターでの貸出・返却の処理、配架、レファレンスなど、利用者として見える部分しか具体的なイメージを持っていませんでした。授業で目録の記述法や分類の仕方など習ってきたものの、実際の仕事としてどのように行われているのか、ピンときていませんでした。しかし実習を通して、現場でどのような工程が行われているのか、実際に仕事に参加しながら学ぶことができ、とても勉強になったと思います。

発注・受け入れから始まり、目録作業、分類作業、装丁などを経て、図書が実際に利用者の手元へ届くまでの過程。貸出、返却、配架、予約処理など、利用者とは接する仕事。ILL や北方資料室など、大学図書館ならではのもの。幅広く参加できたので、図書の流れや仕事内容、分担の仕組みがよく分かりました。そして、実際に利用されるデータや図書などの現物にあたる作業も多かったことで、仕事への責任や緊張感まで体験することができました。また、中央図書館だけでなく北分館での実習もさせていただいたり、医学部・工学部の図書館や博物館などを見学する機会もいただけて、北海道大学全体をより深く知ることができたように思います。朝、真っ暗な書庫に入り電気をつけるとか、古い本の埃でアレルギーになりかけるなど、少し怖い思いをしたこと・意外なハプニングもありましたが、職員の方々が優しく指導してくれたおかげで、とても楽しく3週間の実習を終えることができました。

実習内容で特に印象に残っているのは、北方資料室での作業です。古地図や巻物、写真、北海道・アイヌを始めとした郷土資料がとても豊富で驚きました。さらに、そのような貴重な資料の数々を実際に見て触れることができ、感動しました。クラーク博士に関しても、以前は名前を知っている程度だったのですが、北海道大学にある豊富な資料や職員の方からの説明を受け、当大学の前身である札幌農学校に大きな貢献をした人物であることが分かりました。直筆の文書などが展示されていたことも、印象的でした。

そしてもうひとつ、模擬ライブラリーセミナーを行ったことも、とてもよい経験になったと思います。初めて図書館を利用する人に対して北海道大学の OPAC の利用方法を教える、という想定で、初心者役の職員の方々の前で講習会をさせていただきました。人前に立って分かりやすく説明をする、という機会が今までほとんどなかったので、ものすごく緊張しましたが大変勉強になりました。また、自分で教える立場につくことで、北海道大学の OPAC についての理解が深まったとも思います。

実習を通して、大学図書館について学べたことはもちろんですが、それだけではなく図書館員として働くことがどういうことなのかということも、断片的ではありますが知ることができました。この図書館情報学実習での経験を今後の大学での勉強や、さらにこの先就職してからも、活かしていきたいと思っています。



蔵書検索を行なう実習生

図書館実習を振りかえり ― 社会の一員として思う ―

筑波大学図書館情報専門学群 3年 中 村 里 恵

夏真っ盛りの北海道，札幌市。北海道大学附属図書館での三週間の実習は，ありきたりな表現ではありますが，長いようで本当にとっても短い日々でした。札幌で生まれ育った私にとって，北大という存在は少し特別なものです。その附属図書館へ実習に行った，ということがなんだか今でも不思議に感じられます。けれどもその日々は私にとってこれから大きな財産になっていくのだろう，と，夏を振りかえり，改めてそう思います。

大学の講義の中で聴いていた機関やツールが，実際に存在し使われている，ということは当たり前のことでありながら，なかなか感覚として理解しにくいものです。私はこれまで，それらを遠い世界のもののようにはしか感じられず，漠然としたイメージでしか捉えることができませんでした。私が今まで様々な場面で目にしてきた文献やハンドアウトの中に書かれていたことが，現実の社会のことなのだ，と実感できたことは私にとって，とても意義のあることでした。もっと早くこのことを理解できていたら，私の大学生活はもう少し違ったものになっていたかもしれない，とさえ思います。

そして，図書館業務を図書の流れにそって一通り体験させていただけたことも，とてもありがたいことでした。それによって，私は「仕事」というものが，決して独立のものではなく，必ずどこかで繋がっているものなのだ，ということを実感できたように思うのです。特に，受け入れ業務の時に手にしていた本が，実際に配架されていくのを見たとき，とても感慨深く思ったことを強く覚えています。その体験は，局所的にしか仕事に関わることのできないアルバイトなどでは，決してできなかったものでした。

さらに今回の実習は，私の「インターンシップ」というものに対して高校から抱いていたイメージと，大きく異なるものでした。私が高校時代に経験したインターンシップは，ほとんどアルバイトと変わりありませんでした。なので，これほどたくさんの方々が事前に準備をして下さって，丁寧に，親切に指導していただけるなどとは，思ってもいなかったのです。感謝の思いと，自分の勉強不足や甘さを恥ずかしく思う気持ちとが入り混じり，正直なところ少し複雑な心境です。

3週間の実習を通して，私は当初「図書館実習」として想像していた以上のものを得ることができました。それは，自分がまぎれもなく社会の一員であるのだ，という実感と，そして，これから社会人になるのだ，という覚悟です。実習を通して得たものの中で，時間がある程度経過した今になって一番心に残っているのは，その点に関するところのように思います。そして，何よりも大切なこともまた。

この実習は，これから始まる就職活動や，それから先の将来にも活かすことのできる，活かさなければならない，自分にとって本当に実りあるものであった，と心からそう思っています。



書架点検を行なう実習生

教員著作寄贈図書

2005.7.1-2005.10.31

寄 贈 者	所属部局	寄 贈 図 書	所 在
加藤 重広	文学研究科・文学部	日本語修飾構造の語用論的研究 / 加藤重広著. － ひつじ書房, 2003.2. － (ひつじ研究叢書 ; 言語編 ; 第29巻)	本館・開架閲覧室
			分館・開架・一般図書
加藤 重広	文学研究科・文学部	言語学入門：これから始める人のための入門書 / 佐久間淳一, 加藤重広, 町田健著. － 研究社, 2004.12.	本館・開架閲覧室
			分館・開架・一般図書
加藤 重広	文学研究科・文学部	日本語を知るための51題：日本語のこと, あなたはどれだけ知っていますか? / 加藤重広, 吉田朋彦著. － 研究社, 2004.12.	本館・開架閲覧室
			分館・開架・一般図書
加藤 重広	文学研究科・文学部	日本語学のしくみ / 加藤重広著 ; 町田健編. － 研究社, 2001.10. － (シリーズ・日本語のしくみを探る / 町田健編 ; 4)	本館・開架閲覧室
			分館・開架・一般図書
加藤 重広	文学研究科・文学部	日本語語用論のしくみ / 加藤重広著 ; 町田健編. － 研究社, 2004.7. － (シリーズ・日本語のしくみを探る / 町田健編 ; 6)	本館・開架閲覧室
			分館・開架・一般図書
加藤 重広	文学研究科・文学部	みんなの日本語教室 / 加藤重広著. － 三笠書房, 2001.6.	本館・開架閲覧室
			分館・開架・一般図書
吉田 文和	公共政策大学院	The cyclical economy of Japan / Fumikazu Yoshida. － Hokkaido University Press, 2005.	本館・開架閲覧室
			分館・開架・一般図書
人見 剛	法学研究科・法学部	分権改革と自治体法理 / 人見剛著. － 敬文堂, 2005.3. － (自治総研叢書 ; 16)	本館・開架閲覧室
田村 善之	法学研究科・法学部	特許判例ガイド / 増井和夫, 田村善之著. － 第3版. － 有斐閣, 2005.8. － (CaseG)	本館・開架閲覧室
山口 二郎	公共政策大学院	ポスト福祉国家とソーシャル・ガバナンス / 山口二郎, 宮本太郎, 坪郷實編著. － ミネルヴァ書房, 2005.10. － (ガバナンス叢書 ; 2)	本館・開架閲覧室
中村仁志夫	医学研究科・医学部	医療系学生のための病理学 / 中村仁志夫[ほか]著. － 第3版. － 講談社, 2005.9.	本館・開架閲覧室
			分館・開架・一般図書
高橋是太郎	水産科学研究院・水産学部	水産機能性脂質：給源・機能・利用 / 高橋是太郎編. － 恒星社厚生閣, 2004.11. － (水産学シリーズ / 日本水産学会監修 ; 142)	本館・開架閲覧室
			分館・開架・一般図書
布施 泉	情報基盤センター	教科「情報」は難しい? : 高等学校普通教科「情報」実施初年度アンケート報告 / 布施泉, 野坂政司, 岡部成玄著. － 日本情報教育開発協議会, 2004.	本館・開架閲覧室
			分館・開架・一般図書
布施 泉	情報基盤センター	高等学校教科「情報」実施状況調査報告 : (中間とりまとめ) / 布施泉, 野坂政司, 岡部成玄著. － 北海道大学情報基盤センター, 2003. － (情報処理教育研究集会講演論文集 ; 平成15年度別冊)	本館・開架閲覧室
			分館・開架・一般図書

ご惠贈誠にありがとうございました。図書館では本学教員が執筆した図書資料を収集しています。新たに本を出版される際には、是非ご惠贈くださるようご協力お願い致します。

会議 (17.8.1~17.11.2)

【学 内】

◎図書館委員会

○第202回〈11月2日(水)〉

議題

- 1 2006年の学術研究コンテンツについて
- 2 「北海道大学学術成果コレクション」構築の推進について

報告事項

- 1 「学術研究コンテンツ（電子ジャーナル・学術文献データベース等）の購入経費について（方針）」について
- 2 学術研究コンテンツ小委員会（平成17年度第3・4回）について
- 3 国立情報学研究所最先端学術情報基盤の構築推進委託事業について
- 4 平成17年度総長室重点配分経費について
- 5 北分館の改修工事について
- 6 平成17年度第1回北海道大学附属図書館講演会について
- 7 平成17年度図書館実習について
- 8 小樽商科大学学生の利用について
- 9 図書館関係諸会議について
- 10 その他
 - 1) 第48回北海道地区大学図書館職員研究集会について
 - 2) 第47回北海道図書館大会について

◎学術研究コンテンツ小委員会

○平成17年度第3回〈9月12日(月)〉

議題

- 1 2006年度電子ジャーナルの選定について
- 2 2006年度学術文献データベースの選定について
- 3 2006年度中止とする電子ジャーナルの選定について
— 利用状況調査をもとにした学術研究コンテンツ小委員会選定 —

報告事項

- 1 北海道大学電子ジャーナルの概要

○平成17年度第4回〈10月3日(月)〉

議題

- 1 2006年新規希望電子ジャーナルの決定について
- 2 2006年中止希望電子ジャーナルの決定について
- 3 2006年中止とする電子ジャーナルの決定について

— 学術研究コンテンツ小委員会選定リストから —

4 2006年度学術文献データベースの中止について

【学 外】

◎第79次国立七大学附属図書館協議会及び第4回国立七大学附属図書館長会議並びに第38回国立七大学附属図書館事務部課長会議〈9月29日(木)〉(京都大学)

◎国立大学図書館協会

○理事会〈10月27日(木)〉(北海道大学)

◎北海道地区大学図書館協議会

○第48回図書館職員研究集会〈8月19日(金)〉(藤女子大学)

○第55回総会 〈9月2日(金)〉(旭川医科大学)

○第48回図書館職員研究集会企画委員会 第4回〈10月21日(金)〉(北海道大学)

◎電子ジャーナル・タスクフォースとの懇談会〈10月5日(水)〉(北海道大学)

榆蔭120号訂正

以下のように訂正がありましたので、お知らせとともにお詫び申し上げます。

頁	行	誤	正	項目等
P.11	22行目	牛来	午来	
P.13	11, 36行目	逸見勝亮ほか著 教育の文化史〈1〉学校の構造	逸見勝亮ほか編 教育の文化史〈1〉学校の構造 / 佐藤秀夫著	
	18行目		岩波書店	出版社(欠落)
	19行目		講談社	出版社(欠落)
	26行目	北海道大学出版会	北海道大学図書刊行会	
	12, 37行目	逸見勝亮ほか著 教育の文化史〈2〉学校の文化	逸見勝亮ほか編 教育の文化史〈2〉学校の文化 / 佐藤秀夫著	
P.24	4, 5 行目	9:00~19:00	9:30~19:00	土曜日・日曜日開室時間

北海道大学附属図書館報「榆蔭」(ゆいん) 第121号 平成17年12月21日発行

〈編集〉 「榆蔭」編集委員会

〈発行〉 北海道大学附属図書館 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL: 011-706-2967 FAX: 011-747-2855 ホームページ <http://www.lib.hokudai.ac.jp>